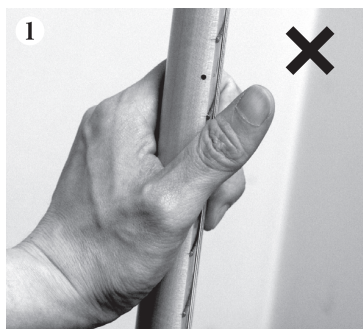


注意点1

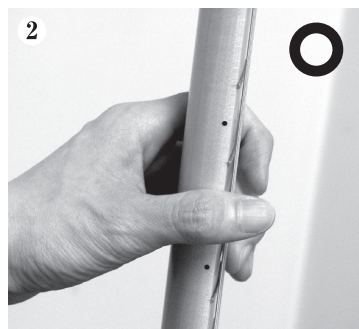


まずは、スライドの基礎を押さえよう

スライドを弾く際に、まず注意しなければいけないことは、どこからどこまでフレットを移動するかを確認することだ。アバウトに弾くことは、ハッキリとしたサウンドが得られず、さらにリズムも乱れてしまう恐れがあるので絶対に避けよう。続いて注意してもらいたいのが、スライド時のネックの持ち方だ。しっかりと押弦しようとするあまり、ネックを包み込むように握り、手首を反らせた状態にしてしまうと、滑らかにスライドすることができない(写真①)。手のひらとネックに多少すき間ができる程度に、人差し指と親指で軽くネックを持つようにしよう(写真②)。また、親指はネックの上に少し出してネック上を滑らせるようにすると、ネックに対して平行にストレスなく移動できるのでオススメだ。



1 このように手首を反らし、ネックを包み込むように握ってしまつては、滑らかなスライドはできない。



2 手のひらとネックに多少すき間ができる程度にネックを持つ。無駄な力みがなくなるはずだ。

注意点2

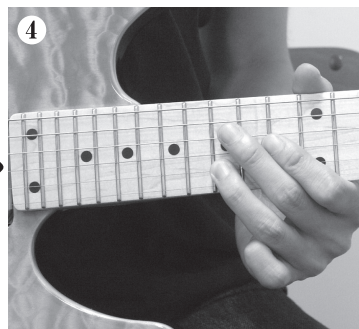


大幅な移動を伴うスライドは軽やかに弾こう

このメイン・フレーズは、さまざまなポジションやタイミングでのスライド・プレイが登場する。そのため意外と難易度は高いぞ。オルタネイトピッキングを16分でキープさせ、スライド時に空振りを入れるように弾けばリズムが乱れることはないだろう。慣れるまではスライドを行わず、すべてピッキングで弾いてみて、運指やスライドのポイントを確認しても良いと思う。最大の難関は、3小節目3拍目の2弦20フレットから15フレットへの大幅なスライドだ(写真③&④)。このスライドは、スティーマー・ヴァイが得意とするもので、“キューン”といった感じに軽やかに弾いてもらいたい。この時に人差し指や中指を使って、余弦のミュートを行なうことも大切だ。



3 2弦20fを薬指で押弦。人差し指と中指を使って余弦をミュートしながら、スライド準備をしよう。



4 2弦15fへのスライド。ネック側面のポジション・マークを頼りにスライドすると良いだろう。

～コラム25～

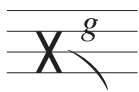
地獄の戯れ言

ここでは、グリッサンド(グリスとも言う)についても解説しよう。始点と終点が決まっていないグリスは、ソロだけではなくリフなどにも活用できる(図1)。例えば、リフの導入部や展開前のフックに“ブーン!”という音程感のないグリスを入れることで、ワイルドなサウンドを生み出せるだろう。こういったフレーズでは、より迫力を出すため5&6弦の2本を中指でグリスすると良いぞ。移動スピードも重要なので、好きなギタリストのプレイを研究してみてもいい。ちなみに筆者がオススメしたいギタリストは、ジョン・サイクス。ホワйт・スネイクの『サーペンス・アルバス<白蛇の紋章>』を聴いてみてほしい。

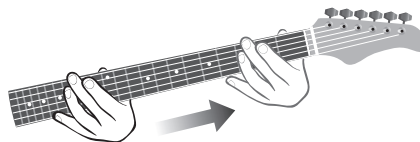
ワイルドなグリスも覚えるべし!

図1 グリッサンド

5 & 6弦の2本弦を、中指でグリスする。



このような記号を見たら!



15f付近からヘッドに向かって、中指で弦をコスリながら移動。